

ー 初夏の感染症 ー

今回は、この時期に気になる感染症の特集です。

「長かったインフルエンザの流行も終わって、ほっとひと安心。と思っていたら、喉が痛くて・・・なんだか風邪をひいたみたい。熱は下がったけど、ずっと咳が続いちゃって・・・。」
このような場合、次のような感染症かもしれません。



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

特徴 冬季および春から初夏にかけての2回の流行がある感染力の強い飛沫感染症。潜伏期は2～5日。どの年齢でも発症するが、学童期の小児に最も多い。3歳以下や成人では、かぜ症状とまぎらわしいため、知らないうちに感染を広げていることがある。家庭、学校などの集団での感染も多い。検査は、迅速診断キットが普及しすぐに診断、治療が行われるようになった。

症状 突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛によって発症し、しばしば嘔吐、咳を伴う。咽頭粘膜は浮腫状で扁桃は浸出を伴い、軟口蓋の小点状出血あるいは莓舌がみられることがある。

治療 ペニシリン系薬剤が第1選択薬である。アレルギーがある場合にはエリスロマイシンが適応となり、第1世代のセフェムも使用可能である。**抗菌薬は少なくとも10日間は確実に投与することが必要**である。効果が思わしくない例では、クリンダマイシン、アモキシシリン/クラバン酸、あるいは第2世代以降のセフェム剤も使用される。

予防 患者との濃厚接触をさけることが最も重要。咳エチケットや手洗いなどの標準予防策を行う。

感染対応 感染者に対し飛沫感染対策を行う。(インフルエンザと同じ)

職員が罹患した場合は、解熱かつ抗菌薬内服48時間以上経過した場合に就業復帰の目安とする。抗菌薬内服中や咳がある場合は、サージカルマスクを着用する。

※学校保健安全法では、適切な抗菌薬内服後24時間経過後に登園・登校可とされていますが、当院職員は医療従事者であることから患者・同僚へ感染させないためやや厳しく制限しています。

その他にも・・・

・咳が続く …… **百日せき(から咳が続く) マイコプラズマ肺炎**

※季節はあまり関係ありませんが、飛沫感染するので危険です。

・手のひらや足の裏に小さい水ぼう(水ぶくれ)・・・ **手足口病(水ぼうのウイルスから感染)**

・かぜ症状とぼつぼつ赤い発疹 …… **風しん(特にワクチン接種をしていない方はご注意)**

※風疹は、例年では春から初夏に流行します。妊婦の方の罹患を防ぐため、各市町村では、今年度も『風疹ワクチン』『MRワクチン』の助成制度を継続されているところもあります。年齢制限や妊婦さんとの同居など条件がありますので最寄りの役所へおたずねください。

田植えの季節・・・新緑の山を見るだけで心がワクワクする
山菜採りの季節です。採れたてのわらびのお浸しは本当においしい
ですね。ですが、この時期の山菜採りや川辺の草むらなどで
遊ぶ時には、つつが虫病に注意してください。

つつが虫は気が付かないうちに刺されて、発熱した時には風邪
と思われて治療が遅れると重症になることがあります。
今年は5/24までに県内で2例報告されています。



※刺し口（写真）

県 HP 美の国ネットより引用

つつが虫病

特徴 つつが虫病は *Orientia tsutsugamushi* を起因菌とするリケッチア症であり、ダニの一種ツツガムシによって媒介される。生息する草むらなどで、有毒ダニの幼虫に吸着されて（咬まれて）感染する。発生はダニの幼虫の活動時期と密接に関係するため夏季に多い。かつては、山形県、秋田県、新潟県などで夏季に河川敷で感染する風土病であったが（古典型）、戦後新型つつが虫病の出現により北海道、沖縄など一部の地域を除いて全国で発生がみられるようになった。

症状 発熱（39～40℃）、刺し口、発疹は主要3徴候とよばれ、およそ90%以上の患者にみられる。また、倦怠感や頭痛などひどい風邪の初期症状に似ている。発疹は4～5日後に現れ、患者の半数には刺し口近傍のリンパ節や全身のリンパ節の腫脹がみられる。検査ではCRP強陽性、ASTおよびALTなどの肝酵素の上昇が約90%の患者にみられる。治療が遅れると脳炎や播種性血管内凝固症候群（DIC）を起こし致死率が高い。

治療 治療は、早期に本症を疑い適切な抗菌薬を投与することが極めて重要である。第一選択薬はテトラサイクリン系抗菌薬（ミノマイシンなど）であり、使用できない場合はクロラムフェニコールを用いる。βラクタム系抗菌薬は無効である。

予防 つつが虫はごく小さく、肉眼で見つけることはほとんど不可能です。しかしつつが虫は身体に取り付いてもすぐに吸着するのではなく、適当な場所を探し回り内側に入るまでに10時間近くかかります。その間に衣類や身体についているかもしれないつつが虫を取り除くことが一番有効です。ワクチンはありません。虫よけ剤の効果ははっきりわかりません。

つつが虫病の予防対策

- ①野山、河川敷等ではできるだけ素肌を出さない。（長袖、長ズボン）
- ②野山、河川敷等から帰宅した時はすぐに着替える。
- ③着替えた衣類は室内に持ち込まない。または、すぐ洗濯する。
（着替えた衣類からはい出たつつが虫が、家族等に取り付く恐れもあります。）
- ④野山、河川敷等から帰宅した時には、速やかに入浴し、念入りに身体を洗い流す。
（咬まれる前に洗い流してしまうことが決め手です。）